

工大広報

2014年11月28日発行(年4回発行)



50th ANNIVERSARY TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2014年 東北工業大学は創立50周年



第39回

工大祭「LINE」開催

「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」採択

「対北海道科学大学定期戦」アメリカンフットボールの試合



創造から統合へー仙台からの発進
東北工業大学

第39回 工大祭 「LINE」

平成26年の工大祭のテーマは「LINE」。工大生や教職員、そして地域住民や他大学生も一本のLINEでつなぎ、これからの新たな時代を切り開いていこうという学生の決意が込められています。

大学祭実行委員会のメンバー一人ひとりが、この「LINE」に込められた思いを胸につくりあげてきた今回の工大祭は、笑顔の絶えない活気あふれるお祭りとなりました。

日時：2014.10月18日（土）・19日（日）

会場：八木山キャンパス



第39回 工大祭「LINE」について（報告）

さかもと ゆずる
坂本 譲

学生部次長
共通教育センター 准教授

平成26年度の工大祭はこれまで38回にわたって作り上げ、培ってきたものを一本のLINEでつなぎそして次の世代につなげるようにとの想いと、昨今希薄になりがちな人と人をつなぐ場となることを目指し、実行委員の学生たちは「LINE」というテーマを掲げ準備を進めてきました。幸いにも前日のスポーツ大会、大学祭両日と天候にも恵まれ、また大きなトラブルもなくすべてのスケジュールを無事に終えることができました。ご協力、ご参加、ご支援いただきました方には心より感謝申し上げます。

残るは今年のテーマ「LINE」に載せた想い、今年の経験をうまく次年度につなぐという最後の作業を実行委員には着実に進めてもらいたいと考えています。



第39回工大祭「LINE」を振り返って

すとう ゆうせい
須藤 裕誠

大学祭実行委員会委員長
建築学科 3年

今年は、屋台配置が去年と変わり観客席を囲み、テーブルを配置したことで来場者との距離感が縮まり、一体感が増したと思います。

一日目は、タイ・泰日工業大学の学生のダンスやタイの文化を紹介する展示・企画など、二日目もシクラメンのライブや後夜祭で多くのお客さまが来場し、盛り上げてくれました。大きなアクシデントもなく、スタッフの協力もあり、工大祭を成功することができました。

今年のテーマ「LINE」の意味が持つ、参加者全員と一本のLINEになって目的を果たすことができたことに、心より感謝申し上げます。

コンサート
企画

おがわ あやの
小川 綾乃

経営コミュニケーション学科 3年



コンサート企画は、アーティストによるゲストライブの運営とテント借用を担当しました。テントについては、配置にもこだわり、どうしたら屋台とステージが一体になれるかを他の部署と話し合いながら進めることができました。シクラメンのゲストライブについても去年を上回るお客さまにご来場いただき、賑やかなものとなりました。

スポーツ
企画

しかの ゆうり
鹿野 有理

経営コミュニケーション学科 3年



今年は天気にも恵まれ快晴の中スポーツ大会を開催することができました。

準備段階で慣れない仕事に戸惑いでしたが、大学祭の仲間や、審判員として協力してくれた体育会の方、そして出場者のご協力もあり、無事全競技を終えることができました。皆さんの良い思い出づくりとなったことと思います。

一般企画

さとう りょうすけ
佐藤 亮介

建築学科 3年



一般企画という部署は主に屋台・展示の管理をする部署です。

昨年に比べ屋台の数は減りましたが、少ないながらも、皆さんに楽しんでいただけるような屋台配置を考えました。そのためか思っていた以上に屋台配置など評判がよかったので、来年は今年の反省と評価された部分をふまえ、実行委員会全員で大学祭を盛り上げていきたいと思っています。

幼稚園
企画

しばた きこ
柴田 貴子

安全安心生活デザイン学科 3年



「わんぱくひろば☆」というテーマをもとに新聞紙プールやダンボールの巨大迷路、ボールプールで幼稚園児の皆さんと楽しく遊びました。

今年は参同していただいた幼稚園が去年より多く、展示物が増え、にぎやかになりました。幼稚園児の皆さんだけでなく、保護者の方にも折り紙で楽しんでいただきました。

ステージ
企画

てらじま みこと
寺嶋 美琴

環境エネルギー学科 3年



全体テーマである「LINE」を基に、大学内外の団体の方にステージで発表していただきました。

今年初の企画もあり、戸惑いもありましたが多くの方に協力していただき大成功をおさめることができました。

来年はさらに素晴らしい大学祭のステージを創り上げていきたいと思っています。

パンフレット
企画

あべ はるな
阿部 春菜

安全安心生活デザイン学科 3年



第39回工大祭のパンフレット企画は、企業の皆さま、学生・職員、他部署の方のご協力のもと無事にパンフレットとポスターを制作することができました。

大学祭当日は、多くの来場者にパンフレットを手にとっていただくことができました。

祭飾企画

たかはし ひろゆき
高橋 寛行

建築学科 3年



メインの宣伝看板となる門看板はクリエイティブデザイン学科の学生に依頼し、よりシンプルでインパクトのあるものを作ることができました。他にもさまざまな案内看板を見やすく目立つように意識して作りました。また、一つの作品を仕上げるのに2、3年生だけでなく1年生も含めた祭飾企画担当者全員で役割分担をし、取り組むことができて良かったと思います。

外部・総務
企画

かじわら だいき
梶原 大希

建築学科 3年



第39回 工大祭の総務・野外企画は主に、学外から占い師を呼んで占いとフリーマーケットの企画を担当しました。

占い、フリーマーケット企画は昨年同様、どちらも多くの来場者にご利用していただき、大盛況で終わることができました。

また、接客の空いている時間も他企画を手伝うなど、時間を有効に活用できたと思います。

工学部
知能エレクトロニクス学科

1.学科屋台

宮下哲哉研究室は昨年に引き続き「宮下亭のモロコシ天」を出展しました。また新たに、小林正樹研究室と小野寺敏幸研究室は共同で、好みの味付けで楽しめるフライドポテト屋台を出展しました。

2.学科企画

ボール回収ロボットやバイオリン演奏ロボットの展示の他、LEDを点灯させる電子工作体験や金のしおりづくり体験を行い、目と耳で感じ体感できるエレクトロニクスの世界を紹介しました。



工学部
情報通信工学科

情報通信工学科では、インターネット、セキュリティ、光通信技術などの研究をしており、大学祭では4号館のITシステムラボラトリを公開しました。

大学祭の学科企画では、情報通信技術が暮らしに役立てられている例として、緊急地震速報の仕組みについて紹介しました。また、見学に来られた皆さんの体験企画として、インターネットケーブルの製作やハンダ付け体験のコーナーを設け、情報通信技術を身近に感じていただきました。



工学部
建築学科

建築学科では、学生有志団体colorsによる19年目のイベント「colors workshop 2014」を開催しました。

今年のテーマは、「好奇心—こどものための木のフォリー—」として、実際に子どもに遊んでもらうための小さな建築のセルフビルドを製作。これに合わせ、学生によるコンペ形式のワークショップを行い、ゲスト講師や構造の専門家と議論を行いながら学生案を練り上げていきました。完成したフォリーは11月3日（月・祝日）の八木山フェスタで公開されました。



工学部
都市マネジメント学科

今年の学科企画は、仙台市地下鉄東西線を取り上げました。平成27年度開業を迎えて全貌が見えてきましたので、学科の真骨頂である地下鉄の計画や土木技術などをパネルにまとめ、来訪者に詳しく解説しました。4年生を中心に展示を進めましたが、説明には汗をかけたようです。ルート選定に関する計画、まちづくり、トンネル掘削工法、地盤・地質の検討、雨水の環境調査。仙台では初めてのダブルデッキの橋梁など、詳しいパネルの展示を行いました。（土木学会東北支部の協賛をいただきました）

また、学科屋台のクレープ屋も出店しました。



工学部
環境エネルギー学科

今年度は、セグウェイ・ソロホイール試乗とソーラークッカー屋台出店で参加しました。セグウェイ・ソロホイールの試乗者数は、昨年よりも減ってしまいましたが、それでも350名超でした。「来年もまた来ます!」と言ってくれた小さな子どもたちがとても印象的でした。ソーラークッカーでは、小籠包や肉まんなど約250食を用意しましたが、両日とも天候に恵まれたおかげで、2日目の午前中に材料を買い足しに行かなければならないほど盛況でした。



ライフデザイン学部
クリエイティブデザイン学科

本学科は、「LINE」というテーマに相应しく学年を超え、人との繋がりを持って楽しく準備を進めていたと感じています。「型染展覧会」は、夏休み前から放課後の活動として最も楽しく制作した手ぬぐいを展示しましたが、見に来られた方が作品の販売を望む程好評でした。特に子供たちが喜んで駆け寄り眺める姿も見られました。また、「Tシャツ」屋台は、学生が積極的にオリジナルデザインの制作と販売を行いました。年々来場者が減っていますが、今後も大学祭を通してさまざまな学生の交流が生まれ、さらに深まることを望みます。



ライフデザイン学部
安全安心生活デザイン学科

学科企画として、学科紹介パネル展示と雄勝石を使ったものづくり体験を行いました。また、学科屋台では宮城県内各地の物産を販売しました。ものづくり体験では、参加者の方が、黙々と雄勝石の破片を組み合わせる姿が印象的でした。屋台は工芸品や乾物、農産物など品数も豊富で、来場者の方も、並んだ品々を珍しそうに見入っていました。学生も元気よくお客さまを呼び込み、商品の説明やお客さまとの会話を楽しんでいました。



ライフデザイン学部
経営コミュニケーション学科

経営コミュニケーション学科では、焼き鳥の屋台を構えました。タレは、仙台の老舗「萩原醸造」で造られている醤油や味噌を使用し、オリジナルの風味を出しました。それが来場者に好評でした。（萩原醸造は、本学科の学生の実家です）学友会代表の阿部凌さんと根元亨輔さんが中心になり、企画から実施まで創意工夫して進めていました。経営コミュニケーションの力を発揮して、多くの来場者に喜んでいただくことができました。



泰日工業大学ステージ企画

泰日工業大学 展示企画・ステージ企画

「泰日工業大学 共催シンポジウム2014」で来学中の泰日工業大学の皆さんにご協力いただき展示企画とステージ企画を10月18日(土)、開催しました。

展示企画では、泰日工業大学の皆さんの大学での研究成果やタイの文化についての紹介を英語と日本語を駆使し熱心に行い、話を聞いていた本学学生も良い刺激を受けていました。

また、ステージ企画ではタイの伝統的な踊りが披露され、異国情緒あふれる踊りを目にした観客からは大きな拍手が送られました。



学生課

後援会各県支部の大学祭見学会(平成26年度)

第39回工大祭の開催に合わせ、後援会各県支部による大学見学会が10月18日(土)に行われ、青森、秋田、岩手、山形、福島、新潟の各県支部から173名のご父母や支部役員が本学の八木山キャンパスを訪れました。

日頃ご子弟が通うキャンパスを見学しつつ、学科企画、サークル展示、各屋台など、趣向を凝らした催しを通して学生たちの活気ある姿を見ていただき、支部によっては長町キャンパスなども見学後帰途につきました。



入試広報課

ミニオープンキャンパスを開催

八木山キャンパスを会場に10月18日(土)・19日(日)の2日間にわたり、「ミニオープンキャンパスー愉しむ、工大。ー」を開催しました。

今回は長町キャンパス施設見学会も実施し、ライフデザイン学部入学志望の高校生にご参加いただきました。同時開催の「第39回工大祭」を楽しみに来場された高校生や保護者も多く見られたほか、間近に迫った「AOVA入試(AO入試)」や「指定校推薦入試」対策の質問が多く寄せられ、高校生や保護者だけでなく、対応した私たちも「入試シーズン本番」を実感する2日間となりました。

今回のミニオープンキャンパス参加者の中から、次回の「工大祭実行委員」が現れることを期待しています！





第29回総合定期戦を終えて

いとう みゆき
伊藤 美由紀

学生部次長
安全安心生活デザイン学科 准教授

北海道科学大学と東北工業大学の第29回総合定期戦が、8月26日(火)、27日(水)に札幌で開催されました。北海道工業大学の名称が今年度より変更され「北海道科学大学」になって初めての定期戦となりました。本学からは学生、教職員、指導者を合わせ228名が参加し、全13種目(うち合同練習2種目)で熱戦が繰り広げられました。結果は残念ながら総合優勝を逃すこととなってしまいましたが、学生たちはさまざまな交流を通じ友情を深めるとともに、各自の成長につながったことと思います。定期戦は、両大学の実行委員の学生や教職員の献身的な準備や運営により無事に行われ有意義な大会となりました。

27年度は第30回記念大会が本学で行われます。両大学の絆が益々深まるよう、北海道科学大学の学生、教職員の方をお迎えしたいと思います。



定期戦対戦成績

種 目	東北工業大学 対 北海道科学大学	備 考
サッカー	● 3 - 3 ○ (PK 3 - 5)	合同練習
ラグビーフットボール	合同練習	
ソフトテニス	● 2 - 3 ○	
硬式テニス	○ 4 - 1 ●	
バスケットボール	● 79 - 91 ○	
剣道	● 2 - 3 ○ (2引分)	
柔道	● 3 - 4 ○	
アメリカンフットボール	○ 19 - 0 ●	
バレーボール	合同練習	
ハンドボール	○ 36 - 21 ●	
弓道	● 66 - 102 ○	
バドミントン	● 1 - 4 ○	
卓球	● 1 - 6 ○	
総合成績	3勝 - 8勝	

総合定期戦を終えて



たかしま みずほ
高島 瑞帆

課外活動連合委員会事務局 局長
ライフデザイン学部
クリエイティブデザイン学科 3年

第29回北海道科学大学・東北工業大学総合定期戦は天気に恵まれて、両大学の選手がこれまでの練習の成果を発揮し、無事に終えられたことを嬉しく思います。長時間の移動で大変だったと思いますが、疲れも見せずに試合に望む姿に胸を打たれました。

今年も総合優勝を逃してしまいましたが、来年は第30回となる記念すべき大会となります。本学で開催されますので、総合優勝することを願っております。

北海道科学大学との総合定期戦



さとう ゆうや
佐藤 佑哉

学友会学部学生会 会長
知能エレクトロニクス学科 3年

今年も、北海道科学大学・東北工業大学総合定期戦を無事に終えることができました。両大学の学生、教職員の方のご助力があつてのものと、この場をお借りして感謝申し上げます。

北海道科学大学に改名後、初の総合定期戦にふさわしく、晴天に恵まれ、絶好のコンディションの中で定期戦を行うことができました。今年も、北海道科学大学の総合優勝となりました。

本学学生一同賞賛を送るとともに、来年こそ本学が総合優勝することを切に願っております。

第40回千葉工業大学硬式野球部定期戦

千葉工業大学との記念すべき第40回硬式野球部定期戦が9月1日(月)、千葉工業大学を会場に行われました。序盤、両投手の行き詰る投げ合いとなりましたが、本学の投手の突然のアクシデントにより内野の守備も乱れ、4回に先制点を奪われる苦しい展開となり、その後もリリーフ陣の乱調により追加点を許してしまいました。

本学の再三のチャンスも相手の好投に阻まれ1点を取るに留まりました。結果7-1で敗れ、昨年からの2連勝とはなりませんでした。

試合後に開かれた懇親会では、互いの秋季リーグ戦での活躍を誓い親睦を深めることができました。



あおき ひとみ
青木 瞳

硬式野球部 主務
安全安心生活デザイン学科
4年



仙台市若林地区 代替コミュニティバス作成計画

ながせ しん
長瀬 晋

都市マネジメント学科 4年

私は仙台市と本学とが平成25年5月に締結した「まちづくりにおける連携協定」の一環として行われた「若林区東西線魅力探検隊」というワークショップに参加し、実感したものを計画とし立案し、第49回土木計画学研究発表会の公共政策デザインコンペで発表しました。

今回ワークショップという形で市民の皆さんと街歩きやグループワーク活動していく中で、仙台市営バスの路線が再編成されることを知り、市民の皆さんの普段使用している足の一つがなくなる可能性を考慮し、今後開業予定の地下鉄東西線を使いやすくすることも視野に入れた市営バスの代替となるコミュニティバスの計画を立案しました。

今後の社会人生活では、今回立案した計画のように市民の方の生活を豊かにできるようなコンサルタントとして社会貢献していきたいです。



地域のみなさんと一緒に 「ガチスカ!」

ちば ひろき
千葉 大貴

環境エネルギー学科 3年

私たち環境サークルたんぼぼでは、ガチスカ! (主にゴミ拾い活動) というイベントに参加しています。

普段、身近な問題ですが、実践者が少ないのが環境活動の現状です。そこで、環境活動に抵抗なく参加、興味をもってもらおうというのが「ガチスカ!」の一つのテーマです。学生主体で、普段、なかなか興味をもってもらえない環境活動に参加者が集まるか、どうしたらイベント自体が楽しいものになるか考え、企画、運営します。会話をしながら、設定コースを歩いて、ゴミの総量の最終結果や、与えられたミッションの達成度を競ってみたり、いかに楽しく活動できるかを追求中です。

市民の方や学生に目に留めていただけるとうれしいですし、環境サークルたんぼぼに興味を持つきっかけになればと思っています。



奨学生紹介

平成26年度 公益信託岩井久雄記念 宮城奨学育英基金奨学生

公益信託岩井久雄記念宮城奨学育英基金奨学生について、本学より学部・大学院合わせて7名の学生を推薦しましたが、選考の結果4名の学生が奨学生として採用されました。今後の活躍を期待しています。



はたなか ともゆき
畑中 友

大学院工学研究科 建築学専攻
博士課程(後期) 1年

好きな言葉

1年目には種をまき、2年目には水をやり、3年目には花を咲かせましょう。



つきだて ゆうた
月館 優太

大学院工学研究科 土木工学専攻
博士課程(前期) 1年

好きな言葉

継続は力なり



くまがい しずか
熊谷 静花

都市マネジメント学科 3年

好きな言葉

今の自分が幸か不幸かは自分で決める



わたなべ しゅうへい
渡部 秋平

環境エネルギー学科 3年

好きな言葉

死ぬまで無事

平成26年度 郵政福祉教育振興基金奨学生

選ばれた皆さんのさらなる活躍を期待しています。



えとう はるか
江藤 遥

クリエイティブデザイン学科 4年

好きな言葉

幸福は香水のようなもの。人に振りかけると自分にもかかる。



さ さ き まさふみ
佐々木 正史

環境エネルギー学科 3年

好きな言葉

審念熟慮

4年生・修士2年生・既卒者対象 学内合同企業説明会



ちば のりゆき
千葉 則行

就職部長
都市マネジメント学科 教授

本学八木山キャンパスの体育館において10月7日(火)午後、就職活動中の本学学部4年生および修士2年生・既卒者を対象とした「合同企業説明会」を開催いたしました。この説明会は、各企業の採用担当者に事業内容や採用に関する説明をしていただくもので、本学にとっては就職支援の重要なイベントの一つです。同時に、この時期にご参加いただく企業は本学の学生を採用したい意向を強く持っており、就職活動中の学生にとっては大切な機会ともなっております。

今回の説明会には、宮城県内外の企業から64社の参加をいただきました。まず開会に先立ち、宮城光信学長から企業の方への挨拶があり、午後1時から学生と各企業の担当者との面談が行われま



した。面談は学生が各企業の各ブースを訪れる個別面談の形式で実施しましたが、参加した学生からは「じっくりと話が聞け、希望する企業が絞り込めました」などの感想が聞かれ、有効なイベントとなったようです。今回の「学内合同企業説明会」が、学生諸君にとって有意義な時間となり、今後の就職活動に役立ってくれることを期待しています。

インターンシップ

創造力を鍛える



やすみ としや
安住 俊哉

クリエイティブデザイン学科 3年
実習先：株式会社ブラウズ仙台

3日間のインターンシップでは、「架空の店の広告展開」という課題を与えられ、自身の体験を元にチャリティーTシャツストアの提案をしました。企画からビジュアル展開(ロゴ、ポスター、雑誌広告、WEB・店舗デザインの制作)、プレゼンの流れでトータルデザインを行いました。この経験から、クライアントの要望だけでなくユーザーの立場になってデザインすることの重要性を深く理解することができました。

また、プロのデザイナーからアドバイスをいただいたり、現場の雰囲気を味わえたことも大変刺激になりました。今回の経験を生かし、いろいろなものを見て創造力を鍛え、就職活動や卒業制作に繋げていきたいです。



技術力を高める



かりべ ようこ
刈部 陽子

情報通信工学科 3年
実習先：株式会社ティー・エス・シー

私が参加したインターンシップでは、3名のグループで業務用Androidアプリケーションの開発をしました。Javaを使ったコーディングを行い、講師が1名ついてサポートしてくださり、自分で解決法を探し出し、業務としてのプログラミングを学ぶことができました。

実習先の企業では、私たちインターン生も実際の職場で作業を体験することができたので、職場の雰囲気も知ることができ、就職時のイメージも明確になりました。

今後は、自分の技術をより高め、就職活動に活かしていきたいと思います。



スケジュール

日程	行事
5月12日・14日	説明会
5月30日	エントリーシート提出
6月中旬～7月下旬	マッチング
7月14日・23日	事前研修会
夏季休業期間	インターンシップ実施
10月3日	報告会
1月下旬	単位認定申請
3月下旬	単位取得

参加人数(平成26年度) (単位：人)

工学部	1年生	2年生	3年生	M2
知能エレクトロニクス学科			6	
情報通信工学科		1	13	
建築学科			10	1
都市マネジメント学科			8	
環境エネルギー学科			3	
合計		1	40	1

ライフデザイン学部	1年生	2年生	3年生	M2
クリエイティブデザイン学科	1	1	26	
安全安心生活デザイン学科			24	
経営コミュニケーション学科			4	
合計	1	1	54	

人の生活をデザインする

工学部 都市マネジメント学科

森田 哲夫 研究室 (MORITA Tetsuo Laboratory)

本研究室は「都市計画」の研究をしています。都市計画というと、ニュータウンや高速道路を計画するといったことを思い浮かべると思いますが、都市計画はもっと広く社会全体を扱う分野です。人々が安心して暮らす、中心市街地で遊ぶ、安全・快適に移動する、高齢になっても元気に働く、環境に負荷を与えない生活をする…つまり都市計画は人の生活をデザインする分野です。そのためには、都市の成り立ちや人の行動を把握し、計画案を市民に説明し、理解を得る必要があります。人々の身近な生活に直結するとても難しく責任もある、そして楽しい分野です。



学生へのメッセージ

研究テーマは、(1) まちづくり・交通の計画、(2) 人の生活・行動の調査と分析、(3) 環境にやさしい・災害に強いまちづくり、(4) 市民参加のまちづくりの4つです。とても広い範囲を設定しています。学生諸君には、自らの問題意識から卒業研修のテーマを考え、調査や分析を行い、その結果をとりまとめ、説明する力をつけてもらいたいと思っています。どんなにより計画ができて、市民の皆さんに自分の言葉で説明し、納得してもらわないと計画は実現しません。そのためには、学外で行われているシンポジウムや講座に参加し、社会の動きを知り、市民のみなさんの声を聞くことも大切です。

今年の夏には、福島県猪苗代で、前橋工科大学と合同でゼミ合宿を行いました。卒業発表では他流試合を経験し、フットサルで親交を深めました。また、仙台市のまちづくりワークショップに参加し、市民の皆さんと交流しました。

今年の夏には、福島県猪苗代で、前橋工科大学と合同でゼミ合宿を行いました。卒業発表では他流試合を経験し、フットサルで親交を深めました。また、仙台市のまちづくりワークショップに参加し、市民の皆さんと交流しました。



前橋工科大学とゼミ合宿



真剣な研究発表



フットサルで交流



まちづくりワークショップで発表

学生の声



ひらおか 平岡 伊織

工学部
都市マネジメント学科
4年

4年生になり、先生にアドバイスをいただきながら卒論研究に取り組みました。私はモノレールや地下鉄に関する研究をしています。

平成26年8月には前橋工科大学と合同合宿を行いました。中間発表では、前橋工科大学の先生や学生から意見をいただき、とても自分のためになったと思っています。講義や就職活動、アルバイトもある中で、正直、合同ゼミの合宿までに発表原稿を仕上げるのが大変でしたが、今となっては楽しい思い出になりました。



ひらの 平野 功樹

工学部
都市マネジメント学科
4年

私が所属している森田哲夫研究室のメンバーは、森田先生の丁寧な就職活動のアドバイスのおかげもあり、無事に全員希望としていた企業から内々定をいただくことができました。

私は大学を卒業した後、スポーツクラブの施設開発に取り組んでいく予定です。運動を通して多くの方に「生きがい」を見つけるきっかけとなる施設を創りたいと考えています。

また夏のゼミ合宿では、他大学の学生の論文を見て、今後の論文作成に向けて良い刺激となりました。



おいかわ 及川 孝久

工学部
都市マネジメント学科
4年

私たち森田哲夫研究室の学生6人は、一期生ということもあり新しいパソコンが一人一台準備され、それを使い卒業論文作成に追われる毎日です。他県の大学の学生と合同合宿を行い、研究発表を行うなど、ゼミ内での活動も活発で雰囲気の良い研究室です。また、研究室の就職状況は、全員第一志望の企業より、内々定をいただくことができました。森田先生が親身に相談に乗ってくださったからであり、この研究室に在籍して良かったと思っています。

教室では語られない学生へ向けた先生のホンネを聞きました。

大学生は能力の
向上に多忙なのです。



みやした てつや
宮下 哲哉

知能エレクトロニクス学科 教授

人々の生活を向上させる力やモノやシステムを創造する能力が世の中から望まれています。それには今まで学んだ科学的思考が役に立ちます。

また、チームを組んで活動する力は先輩・後輩のいる部活やサークルで、仕事の推進に必要な段取りを組む力は研究室の活動で身につけてください。アルバイトに時間を浪費して低賃金を得る低い意識は捨てましょう。

大学では自分から挑戦した結果の失敗からいろいろと学べる良いチャンスです。近い将来に向けて体を動かして「学び取る」姿勢を忘れずに。「学生」は、座って教わる小中高の「生徒」とは違うのです。

生身の人間が集まる
メリットとは…



なかやま まさと
中山 正与

都市マネジメント学科 教授

「一人で部屋にこもって教科書を読んでも、貧乏ゆすりには直らない」というような話をラジオで聞いたことがあります。自分では気づかないような悪い癖や性格などを直すことは大変難しいことです。情報伝達機器の発達した現代において、遠いところから一つの教室に集まって授業を受ける必要はないようにも思えます。単に知識を得るだけであれば、通信教育を受けること、あるいは一人で教科書を読むことで足ります。

しかし、他人に指摘されて初めてわかることもあるのです。いろいろなところから学生が集まる大学、そのメリットを生かすためにも、何でも言い合える友だちを作ってください。

デザインの本質



さかて ゆうじ
坂手 勇次

クリエイティブデザイン学科 教授

デザインの語源はラテン語のDesignareに由来します。その意味は「計画を記号に表す」であり、英語のDesignも「設計」「意匠」「計画」といったさまざまな意味に訳されます。ともすれば芸術的な意味合いで使われるデザインという言葉ですが、そもそもの本質的な意味は「課題を発見し最適な解決の在り方を見つけること」くらいの概念的なもののようです。皆さんに学んで欲しいことは、知識や技能も大事ですが、ホンネを言えば、「自ら課題を発見し解決する」デザインの本質的な力です。ぜひ、課題意識をガラガラさせて大学生活を送って欲しいと思います。



アピール力とチャレンジ精神



青葉山における水質調査



地域連携研修（南三陸仮設住宅）



チームワークと集中力



廃棄物埋立地の調査



産学連携研修（東北イノアック）

泰日工業大学と共催シンポジウムを開催

平成26年10月17日(金)に、本学と交流協定を結んでいる泰日工業大学(TNI)と共催シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、2年に1回、本学とTNIの両キャンパスを交互に会場としながら実施していますが、26年度は本学八木山キャンパス133教室が会場となりました。

シンポジウムでは、TNIからは 8件(教員5件、大学院生3件)、本学からは5件の発表が行われました。計13件という件数の発表があったため、長丁場でタイトなスケジュールとなりましたが、内外から36名が出席し、聴講しました。また、TNIからは学部4年生も来学しており、翌10月18日(土)



記念品の贈呈

開催の工大祭内で、TNIブースを設置し、研究発表を行い、ステージ企画ではタイのダンスを披露しました。

本シンポジウムを通じて、本学と、TNIとの教員交流が行われ、教育・研究連携の一層の推進が期待されます。



シンポジウム後の記念撮影

泰日工業大学(TNI) サマープログラム参加報告

泰日工業大学サマープログラム

みずの しゅん
水野 俊

工学研究科 土木工学専攻博士(前期) 課程 1年

タイでの8日間は、私にとって有意義な時間でした。今回のタイへの訪問は、初めての海外であり不安な気持ちが大きかったです。しかし、TNIの学生は、その不安な気持ちを取り除いてくれるような温かい歓迎をしてくれました。タイでは、不思議に思うことが多くあり、現地の人に質問したり、他大学の学生と意見交換したりすることで理解を深めました。

そして、どれだけ日本が恵まれているのかを改めて実感することができました。

今回得た経験は、私の人生観を大きく変えました。新しい経験をしたいという方は、海外へ行くことをおすすめします。

ワットプラケオ
(王宮およびエメラルド寺院) 前にて

12日間のタイ留学を終えて

さいじょう りかこ
西城 理華子

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科 1年

12日間のタイ滞在を通して多くの経験をさせていただきました。

一番印象に残ったことは、泰日工業大学の学生のコミュニケーションに対する積極的な姿勢です。それぞれ日本語能力に差があるものの、臆することなく日本人の参加者に対して笑顔で話しかけてくれました。わからないことがあればすぐに辞書で調べ、なんとか会話をしようとする積極的な姿勢を、自分自身も含めて日本人の学生が一番見習うべき点だと感じました。

泰日工業大学副学長 Assoc. Prof. Dr. Bandhit
Rojayanont から修了証書授与

中原大学への2名の短期留学派遣に向けて

平成22年よりはじまった中原大学(台湾)への短期留学派遣は第6期を迎えます。26年度も建築学科4年生の2名が、10月2日(木)から11月30日(日)までの2か月間派遣されています。今回の2名は偶然にも同姓同名の佐々木愛美さん(谷津憲司研究室・石井敏研究室)です。中原大学設計学院建築学科で、曾光宗副教授のもと卒業設計の指導を受けます。多くの友人をつくり、多くのことを吸収して帰国することを期待しています。

石井敏研究室・佐々木さん、谷津憲司研究室・佐々木さん:
到着後1週間で受けた設計の指導

自分自身を成長させる機会に

ささき まなみ
佐々木 愛美

建築学科 4年 谷津憲司研究室

中原大学には、建築に関わる学科(インテリアや商業施設設計など)が多いので授業内容に関心があります。台湾の学生の学び方やその姿勢にも関心があります。これまで同じ研究室出身の2人の先輩も留学され、その経験が設計に反映されているということでした。これから卒業設計を控えている私も、先輩方のように成長して帰ってきたいと思います。台湾は親日国であると聞きます。日本と近い文化や街の姿もあるかもしれませんが、その中で日本と異なる点を勉強してきたいです。大学生活最後となる4年生での2か月間。悔いの残らないよう何ごとにも挑戦していきます。

見知らぬ土地が教えてくれること

ささき まなみ
佐々木 愛美

建築学科 4年 石井敏研究室

17歳の時に韓国、20歳の時にはヨーロッパ3国を訪問しました。それまで日本で見たことのない光景を目の当たりにした私は、自分の視野の狭さと、当たり前前の生活が送れることの幸せを感じました。今回の台湾への留学は自分の世界を拡げ、将来の糧となると信じています。見知らぬ土地だからこそ、普段以上に物事や日本を客観的に見ることができると思っています。卒業設計では、今回の留学での学びの経験を活かして、広い視野を持ちながら、生まれ育った故郷の町に住んでいる人のための空間の提案を行いたいと考えています。

地域連携センターだより

■「地域連携センター」事業内容紹介

〈目的〉

地域を志向した教育・研究・社会貢献が求められている中で、本学が培ってきた研究資源を活用するとともに、地域と連携し実施する地域振興、産業振興、人材育成の実践的活動を支援することにより、さらなる地域社会に貢献することを目的としております。

〈活動方針〉

- ①大学の資源（シーズ）と地域や企業団体の課題（ニーズ）との橋渡しを行い、共同研究や受託研究を支援。
- ②地域社会へ貢献することを目指し、地域（自治体・産業界・市民）と本学（教職員・学生・卒業生）が協働・連携して、地域振興（まちづくり）、産業振興（モノづくり）、人材育成（人づくり）、および地域復興の各事業を支援。
- ③これらの活動を充足・展開させるため、センター内にコーディネーターを設置。

〈3部門の設置〉

センターの業務を円滑に推進するため、3部門を設置しました。

- ①地域連携推進部門 ②地域人材育成部門 ③研究・知財支援部門

〈平成26年度の主な地域連携活動〉

○産学官連携協定の支援

平成25年度は、国土交通省、宮城県教育委員会、仙台市、石巻市、みやぎ産業振興機構、仙台印刷工業団地組合、NHK文化センター仙台総社と連携協定を締結したところです。平成26年度も積極的に、宮城県産業技術総合センター、鶴岡工業高等専門学校、建設新聞社などと連携協定を締結しております。

○共同プロジェクト活動

・ せんだい創生プロジェクト

本学の研究資源を活用し、仙台圏の産業振興や生活・文化の向上に貢献することを目指した活動を行います。（10月にテーマ決定）

・ 地域・産学連携プロジェクト（実用化開発研究）

本学の教育・研究上有効で東北地域に貢献することを目的に、自治体や地域企業と共同で研究を行うもので、実用化を目指すものです。

平成26年度実施テーマは下記の7テーマです。



宮城県産業技術総合センターとの協定締結式



鶴岡工業高等専門学校との協定締結式



建設新聞社との協定締結式

●平成26年度 地域・産学連携プロジェクト研究採択一覧【地域産学連携プロジェクト】実用化開発研究（7件）

プロジェクトテーマ	学科	プロジェクト代表者名
イントラネットを流れる通信パケットの情報に基づく実用的なデバイス識別技術の開発	情報通信工学科	角田 裕
屋根一体型太陽電池による融雪	環境エネルギー学科	齋藤 輝文
緊急連絡時の存在通知に関する研究・開発	情報通信工学科	松田 勝敬
高齢者用電動スマートカートの開発研究	知能エレクトロニクス学科	丸山 次人
天然染料と漆塗りを融合した新たな工芸製品の開発	クリエイティブデザイン学科	盧 慶美
情報デザインによるバリアを利用したリハビリテーション支援プロジェクト	クリエイティブデザイン学科	堀江 政広
仮設住宅の高齢化に対応した復興支援事業の創造	クリエイティブデザイン学科	坂手 勇次

○復興大学の支援

学都仙台コンソーシアムによる復興大学事業全体の責任大学および事務局は東北工業大学が担っており、併せて、地域復興支援ワンストップサービス業務の担当責任大学になっております。

地域復興支援ワンストップサービス事業は、コーディネーターによる地域企業・関係機関の巡回訪問を実施し、現状把握や課題抽出を行い、課題解決に向けた大学教員や支援機関とのマッチングを図り、プロジェクト活動を通じて地域や企業の復興・復興に向けて支援・提言を行っております。

■本学が「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択！

東北工業大学の「オールせんだいライフデザイン実践教育共創事業」が文部科学省の平成26年度「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択されました。

全国の大学から申請が237件あった中で、25件が採択され、その確率は約10倍という厳しい競争を経ての結果でした。

「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」は、大学が自治体と連携し全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資するさまざまな人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています。

本学は、地域に根ざした文化と産業の発展を目指し、仙台市と連携を締結しました。

「オールせんだいライフデザイン実践教育共創事業」では、本学の知的資源を活用し、仙台市東西線沿線のまちづくり課題発見と課題解決過程を通じた実践教育、オール仙台をフィールドにした「せんだい創生プロジェクト」による実践研究、社会貢献として、拠点施設を活用したセミナーや公開講座を実施いたします。

以上の取り組みにより、新しいライフデザインの提案・実践、地域の課題を解決できる人材の育成と輩出、地域や住民との連結が期待できるところです。



文部科学省

地(知)の拠点



八木山キャンパス正門前に設置された採択告知の看板



八木山キャンパス 1号館で展示中の地下鉄東西線路線図



学内 COC 事業関係者が参加した東西線地下鉄車輦内覧会



おおさき産業フェアでの「大学COC事業」概要パネル展示

■にぎやかに「第9回秋の八木山フェスタ2014」開催

本学八木山キャンパスを会場に文化の日の11月3日(月)、「八木山フェスタ」が開催されました。

今年は、「仙台市地下鉄東西線」の開通を控える仙台市太白区八木山地区のイベントとして開催。

寒空のもと他会場の八木山動物公園、八木山ベニーランドとともに多くのご家族連れが来場し、種々のイベントに参加し楽しんでいました。

本学9号館教室では、お菓子の家づくり、ペーパークラフトによる動物作り体験が例年通り子どもたちの人気を集めていました。

また、10号館tohtech FORUMにおいて、吹奏楽演奏やコーラスなどの演奏が披露され、来館者はゆったりとした時間を過ごしていました。

中庭では、本学のチアリーダーによる演技、仙台城南高校ダンス部のダンスや町内会の方による雀踊り、太極拳が披露され、来場者の拍手喝采を受けていました。

本学を訪れた人数は1,500名程で、秋の一日を存分に味わうことのできる八木山の地域行事として定着しつつあることがうかがわれます。



◆「学都「仙台・宮城」サイエンスデイ2014」への出展

知能エレクトロニクス学科

知能エレクトロニクス学科は、7月20日(日)に東北大学で開催された「学都「仙台・宮城」サイエンスデイ」に、体験型ブースを出展しました。

当出展により、7月25日(金)に東北大学カタールサイエンスキャンパスホールで開催された「サイエンスデイAWARD2014」の表彰式において、「医工学 REDEEM 賞(NPO法人 REDEEM)」、「I-SCIENCE賞(東北大学大学院情報科学研究科)」および「産業技術総合研究所 東北センター賞(独立行政法人産業技術総合研究所 東北センター)」という3つの賞を受賞しました。

今回の受賞により、2年連続、通算4つの受賞となりました。



表彰式にて

◆「2014電気自動車エコラン競技大会 in SUGO」への参戦

みやもと ゆういち
宮本 裕一 環境エネルギー学科 学科長 教授

スポーツランド菅生で8月24日(日)に開催されたエコランに、宮本裕一研究室のメンバーが参戦しました。競技は指定のバッテリー電力で、サーキット(3.7km)の周回を競うもので、急坂・平地での走法および車体の軽量化がポイントです。1か月の短い準備期間でしたが、仙台高等専門学校のご協力を得、チームは休日を返上し早朝から夜遅くまで作業・試走を行いました。前日の練習走行では1時間程で電力が底をつき5周弱で停まりましたが、本戦では制限時間一杯の2時間で9周走ることができました。車体や走法に改善の余地があり、次の参戦ではより多くの周回が期待できます。



「環境チリ原人 2014 号」とスタート直前調整中のチーム

◆課外セミナー「数学検定の集い」

おがわ よしと
小川 淑人 共通教育センター 教授

共通教育センターでは、課外セミナーのひとつとして、「数学検定の集い」を週1回開いています。目的は数学検定の準1級取得の支援です。

答えを出すときに、問題の背景までみえるようになれば、合格は自然についてきます。時間が限られている授業とは違った数学の面白さを楽しむことができればと思います。

写真の仲間は左から知能エレクトロニクス学科1年生の佐々木勝貴(ささき まさき)さん、小川和敏(おがわ かずとし)さん、角張凌一(かくはり りょういち)さん、同2年生の大川徳幸(おおかわ のりゆき)さん、共通教育センター島田勉教授です。自分で考えるのが好きで、仲間とともに頑張りたい方はいつでもどうぞ。



ゆっくり急げ

◆本学科4年生が国際コンテスト世界大会で入賞

知能エレクトロニクス学科

知能エレクトロニクス学科4年白瀬敬大さんと阿部有一朗さんが、7月20日(日)東北大学川内キャンパスで開催された、MEMS1*デバイスを用いた製品アイデアを競う、国際コンテスト「第5回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト(iCAN' 14)」の世界大会においてBest Contribution Awardを受賞しました。

2名の学生は「Automatic Fire Extinguishing System(自動消火システム)」を試作し、世界各地の予選を勝ち抜いた23チームが参加する世界大会で、英語のプレゼンテーションとデモンストレーションを行い評価されたものです。

今回の受賞は、学生にとって今後の大きな自信になることと思います。

1* MEMS(Micro Electro Mechanical Systems)とは半導体加工技術を用いてシリコン基板上に微小な機械構造やセンサおよび電子回路を集積化する技術



iCAN14 世界大会表彰式にて

◆「ドミノでつながろう」映像制作体験

さるわたり まなぶ
猿渡 学 経営コミュニケーション学科 准教授

ライフデザイン学部経営コミュニケーション学科猿渡学研究室では、「テレビ朝日 ボクたちの番組作り～東北に元気を!」に取り組みました。

この企画は、震災をテーマに10分間の映像制作を行うというものでした。宮城大学、東京大学大学院の三大学がそれぞれの掘り下げ方で震災4年目を映像で表現しました。

本研究室の学生たちは、ドミノが津波にみえるという問題点を乗り越えて、東北が元気だということ、ドミノが次々に繋がっていることで東北全体が一つです、元気です!というメッセージを込めた作品を制作しました。



実際の報道現場・
ドミノをひたすら並べました

◆課外セミナー 大学院生のレポート紹介

ただ みか
多田 美香 共通教育センター 准教授

環境情報工学専攻博士(前期)課程1年の菅井智也さんが7月25日(金)に芝浦工業大学システム理工学部(さいたま市)で開催された特別講義を受講しました。また、生命科学の研究施設を見学しレポートを作成しました。

印象深い文章を紹介します。「研究を行う上で大切なことは闇雲に実験するのではなく、何で失敗したのか、その原因を追及し再実験することが成功につながる、高額な研究設備があるから実験が進むのではなく、現状の機器でどのような実験ができるのかを考え工夫することが重要だと気付きました」。今後が楽しみです。



特別講義 生体計測概論～生体レドックス状態計測とその応用～

共通教育センター **新井 敏一** 准教授

共通教育センター
うめだ けんたろう
梅田 健太郎 教授 **ご紹介**



超低温における物質の性質を探る

新井先生は京都大学大学院理学研究科(物理学)を修了後、京都大学、東京大学物性研究所、理化学研究所、九州大学高等教育研究センター、京都大学低温物質研究センターを経て、3年前に本学に着任されました。ご専門は超低温領域における物性実験で、実験装置やシステムを自作する本格派です。研究対象はすべての物質が凍り付くとても冷たい世界ですが、ご本人は触ると火傷しそうな情熱とバイタリティにあふれています。ご趣味はフィッシングで、日本に限らず世界の海にクルーザーで乗り込んでいるようです。昔はミュージシャンだったとか。

物理学・物理実験を担当されておりますが、先生の居室にはいつも質問者が絶えず、学生に頼りにされています。



質問者への学習指導

topics

「東北工大 Live 講義 2014」開催

入試広報課

本学八木山キャンパスを会場に9月27日(土)、「東北工大 Live 講義 2014」を開催しました。

主に高校生を対象としたこのイベントは、本学での学びを直に体験してもらうことを目的に、全8学科から午前4講義、午後4講義を実施。

さらに、高校生からの要望に応え「小論文対策講座」も実施しました。受講者数は延べ405名(実参加者数187名)にのぼり、シーズン本番を控えた受験生だけでなく、次年度入試を見据えた高校2年生の来場者も見られ、高校生・保護者ともに、「進路選択の参考になった」という感想が寄せられました。



新任教員紹介 (2014年10月1日付)

ライフデザイン学部
経営コミュニケーション学科

なりかわ まさてる
成川 正晃

会計関連科目を担当します。「会計情報」の良き利用者を育てていきたいと思ひます。



column

もりた けんいち
森田 健一 ウェルネスセンター カウンセラー 講師

「三日坊主をモノにする！」



前号の「やる気がでない」に続いてよく聞く悩みとして「すぐに飽きて長続きしない」があります。彼らは三日坊主だと恥じますが、視点を変えると、新しいことに挑戦する好奇心があり、自分には合わないと思いつめる力があつたとも言えます。これを単なる屁理屈で済まさないためには、“次”に生かす工夫が必要です。

そこで、私も実践している“自己研究ノート”をオススメします。ノートには「どうせ私はダメだ」といった極論ではなく、「どこまで持続し(何を獲得し)、何につまずいたのか」などの事実を具体的に記述します。たとえば、「早起きしてジョギングを始めたが続かなかった」とはよく聞く失敗ですが、「早起きの辛さ(睡眠時間の確保の難しさ)」、「ジョギングして風呂に入ったあとの爽快感」などを公平に分析することで、“今の自分に必要な調整(足りないもの)”や“挑戦によって得られるもの”などが明らかになります。それをデータとして残しておく、今後新しいことをはじめるときに必ず役に立ちます。また、“研究”としてノートに書き“出す”ことで、自己嫌悪に閉じ込めるのではなく、そこから距離を取って自身を分析対象にする余裕が生まれ(他人事だとは何とでも言えるのはこの余裕です)、視野も広がります。

三日坊主と切り捨てる前に、貴重なデータをくれた三日間だと信じて今の自分自身を冷静に分析し、次の対策を講じましょう。

そのノートはいずれあなたの宝物になるでしょう。

今後の行事予定(平成26年度)

12月

- 6日(土)・13日(土) 後期補講日
- 24日(水) 冬季休業開始(～1/2(金)まで)

平成27年 1月

- 2日(金) 冬季休業終了
- 15日(木) 定期試験時間割発表
- 20日(火)・21日(水) 後期補講日
- 22日(木)～27日(火) 後期定期試験

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

〒982-8577
宮城県仙台市太白区
八木山香澄町35番1号
東北工業大学 広報室
TEL : 022-305-3144
FAX : 022-305-3146
E-mail : kouhou@tohotech.ac.jp